

令和 8 年 度

事業計画書

令和 8 年 7 月



京都府 織物・機械金属振興センター

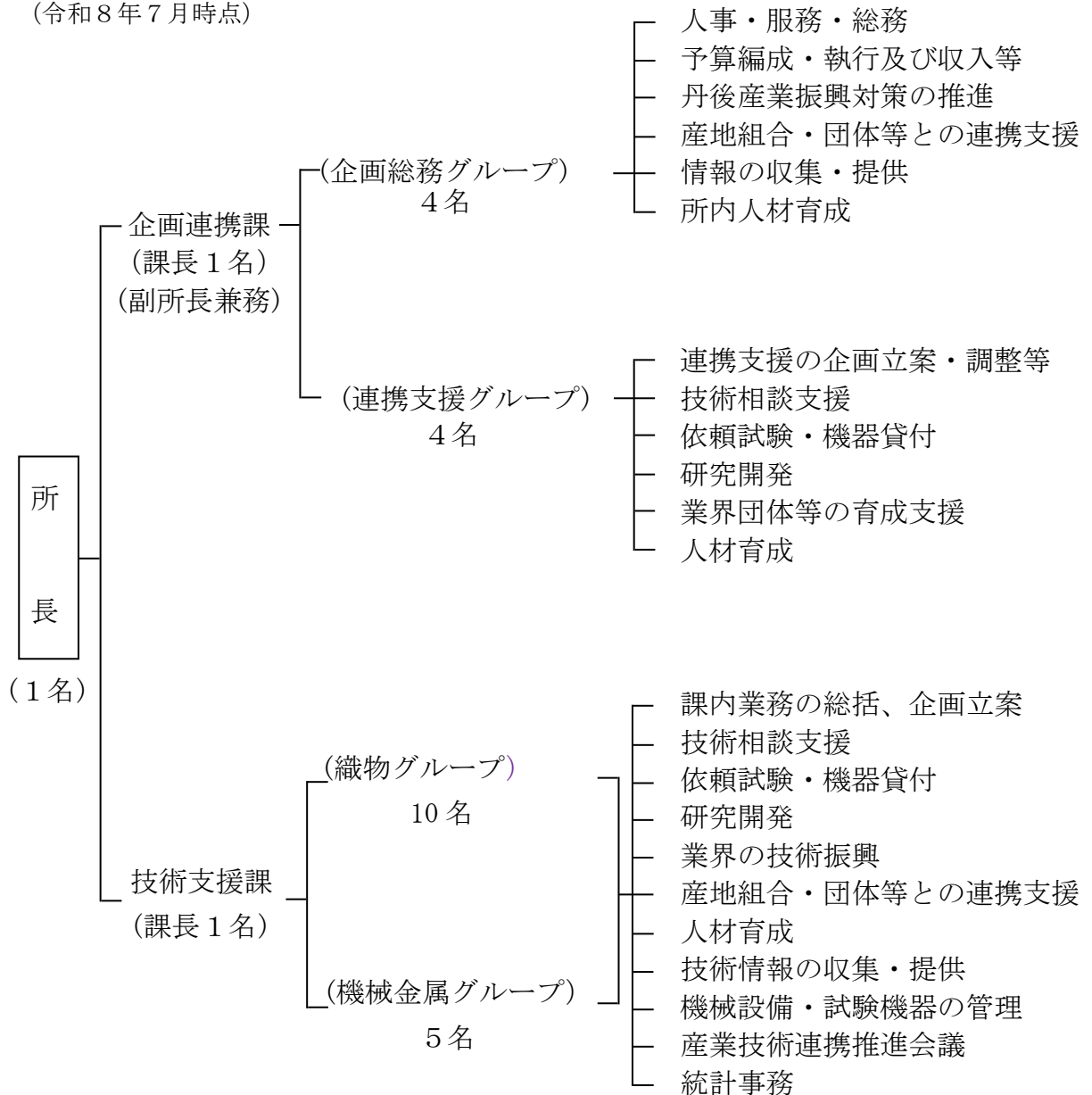
目次

I 当センターの概要	1
II 基本方針	2
III 令和8年度 事業計画及び数値目標	3
1 企業・地域ニーズに応じた技術支援の強化	5
(1) 企業訪問	5
(2) 技術相談対応・現場支援	5
(3) 京都府中小企業特別技術指導員等による巡回支援	5
(4) 依頼試験	5
(5) 機器貸付	5
(6) 京都府伝統産業生産基盤支援事業費補助金	5
2 企業・地域ニーズに応じた技術人材の確保・育成	7
(1) 課題・ニーズに応じた研修の充実	7
(2) 将来を担う人材の育成	10
令和8年度人材育成研修・セミナー開催スケジュール	11
3 時代の潮流に応じた新技術等開発の促進	13
(1) 新技術の研究開発	13
(2) 企業や大学との共同研究等	14
(3) 府政の重点施策分野における勉強会・研究会の実施	14
4 地域に頼られるセンター体制の確保	15
(1) 適正な人員の確保・育成	15
(2) 計画的な機器の導入・更新	15
(3) 大学等との試験検査機器の相互活用体制の構築	15
5 各種関係機関との連携強化	16
(1) 丹後・知恵のものづくりパークによる経営・技術の総合支援（再掲）	16
(2) 丹後織物工業組合との連携、支援	16
(3) 丹後機械工業協同組合との連携、支援	16
(4) 産学公の連携（再掲）	16
(5) 公設試験研究機関との広域連携支援	16
(6) 市町、商工会等との連携、支援	16
(7) 関係団体との連携、支援	16
6 情報収集と情報発信	18
(1) 地域及び企業の情報収集と情報提供	18
(2) デザイン情報の提供	18
(3) 研究成果の資料配布・情報発信	18
(4) SNS、メールマガジン及びホームページ等での情報発信	18
(5) メディアへの情報提供	18
(6) 一般住民向けイベントの開催	18
沿 革	19
所在地及び施設等の概要	20
丹後・知恵のものづくりパークの概要	20

I 当センターの概要

職員総数 26 名

(令和 8 年 7 月時点)



Ⅱ 基本方針

2022 年 12 月に改定された京都府総合計画では、「未来を拓く京都産業の実現」をビジョンの一つとして掲げ、産業創造リーディングゾーン「丹後テキスタイル産業の集積拠点」を目指し、「シルクテキスタイル産業」として世界最高レベルのシルクと染めの技術を活用したテキスタイル産地の形成に、産業・物流広域連携プロジェクトや京都府北部地域連携都市圏広域連携プロジェクトとして取り組んでいる。また、丹後地域振興計画では、基本施策として「地域が誇りを持てる活力ある産業づくり」や「地域を支える人材の確保」を掲げ、「世界中から人を惹きつけ、注目される産地づくり」、「次世代への技術継承と市場ニーズに合った商品開発」、「中小企業の新分野進出支援と AI・IoT 技術等を活用した支援」によるものづくり産業等地域産業の振興をはじめ、地域企業等と連携した人材の確保・育成に取り組んでいる。

当センターでは、京都府総合計画を踏まえ、当センターの中長期的視点での方向性と、それを達成するための具体的な方針を示す「中期計画」を、令和 8 年度に策定した。「中期計画」で定めた以下「4 つの基本方針」を柱とし、総合産地化・高付加価値化に向けた新技術・新商品開発や新分野への進出、新産業の創出を目指した取組など、京都府北部地域のものづくり産業を(公財)京都産業 21 北部支援センターと一体となって支援し、総合的な活性化対策を推進する。

＜中期計画 基本方針＞

1 企業・地域ニーズに応じた技術支援の強化

- 地域・企業ニーズの的確な把握
- 技術支援の高度化
- 新たなイノベーションや価値創造の実現（異業種連携等）

2 企業・地域ニーズに応じた技術人材の確保・育成

- 地域・企業ニーズの的確な把握
- 従事者の技能等レベルアップ
- 新たな課題・ニーズ（サステナビリティ・国際的基準等）への対応
- 将来を担う人材育成（小中高大生へのアプローチ）

3 時代の潮流に応じた新技術等開発の促進

- 府政重点施策の技術的支援の充実（シルクテキスタイル産地形成、宇宙産業等進出）
- 新たなイノベーションや価値創造の実現（異業種連携等）
- 企業の技術力や市場動向に応じた「提案型研究開発」の実施
- 大学や研究機関等と連携した研究開発の実施
- 新たな課題・ニーズ（サステナビリティ・国際的基準等）への対応

4 地域に頼られるセンター体制の確保

- 伴走支援の担い手となる専門性の高い技術人材の獲得
- 企業ニーズの多様化・高度化への対応や府政重点施策とリンクした計画的な機器導入等

Ⅲ 令和 8 年度 事業計画及び数値目標

当センターでは、地域産業の持続的な発展に貢献することを目的に、中期計画で定めた前頁基本指針を業務の柱として、中小企業者等の技術支援や人材育成、新技術開発に取り組むとともに、「関係団体等との連携」、「情報発信」を通じて地域に根差した公設試験研究機関として事業計画を策定する。

令和 7 年度から新たに技術相談件数や機器貸付件数の数値目標を設定し、事業進捗を可視化した。

また、今年度策定した「中期計画」では、新たな数値目標を追加し、定期的に達成状況を確認することで、事業管理や事業分析など、PDCA による継続的な事業改善に取り組む。

当センターは令和 7 年度に創立 120 周年を迎え、丹後地域の歴史文化を継承し、地域とともに未来を見据える「創立 120 周年記念事業」を実施した。

令和 8 年度においても、丹後地域内の事業所が協力して行うオープンファクトリーとより綿密に連携した「織センフェスティバル」を開催する。

【令和 8 年度数値目標】

目標種別		項目	単位	目標値
行動	成果			
◆ 企業・地域ニーズに応じた技術支援の強化				
○		企業訪問件数	件	400
	○	技術相談件数	件	5, 570
	○	依頼試験件数	件	3, 030
	○	機器貸付件数	件	1, 950
	○	京都産業 21 北部支援センターとの連携支援件数	件	36
○		京都府特別技術指導員派遣等延べ件数	件	15
○		連携プラットフォーム新規構築数	件	1
◆ 企業・地域ニーズに応じた技術人材の確保・育成				
○		課題・ニーズに対応した新規研修・セミナー等実施件数	件	7
	○	出前授業等受入校数（小中学生）	校	9
	○	インターン等受入数（大学生）	名	2
	○	見学受入件数（上記以外）	件	20
◆ 時代の潮流に応じた新技術等開発の促進				
○		研究会・勉強会等開催回数	回	15
	○	宇宙ビジネス参入研究会参加事業所数	社	21
	○	新商品開発・販路開拓支援事業に伴う商談成立件数	件	30
○		ニーズに基づく研究開発テーマ数	件	7

	○	実用化件数（技術改善、商品開発、技術移転等）	件	1
◆ 情報収集と情報発信				
○		SNS 発信回数	回	290
	○	SNS リーチ数（投稿を見たユーザーの数）	リーチ	23,000
○		一般住民向けイベント開催数	回	1
	○	一般住民向けイベント来場者数	名	300

行動目標：「成果目標」を達成するため、職員やセンターとして取り組むべき指標を設定し、センター職員の「行動指針」とする。

成果目標：職員やセンターの取組がもたらす「結果」「成果」に関する客観的指標を設定し、事業見直しや職員のモチベーションアップにつなげる。

1 企業・地域ニーズに応じた技術支援の強化

(1) 企業訪問

地域や産業を取り巻く国内外の動きやトレンドを的確に把握し、地域に還元するとともに、「地域」や「企業」が求めているニーズに沿った施策や支援を進めるため、企業訪問を積極的に行う。

「丹後・知恵のものづくりパーク」が京都府北部地域のものづくり人材の育成や新たな産業振興、中小企業の総合支援を行う拠点であることを踏まえ、(公財)京都産業 21 北部支援センターと一体となり、(2)以降の技術相談等を通して京都府北部地域のものづくり産業の総合的な活性化を図る。

(2) 技術相談対応・現場支援

織物の品質向上や生産技術の高度化、新用途織物の開発、染色加工等生産加工の多様化技術、織物製造工程、精練・染色加工工程等全般にわたる技術的問題について相談対応と現場支援を行う。

機械加工部品の加工精度、金属材料の物性等に関する技術的問題についての相談対応や製造物の不具合対応等の技術的課題解決の支援を行うとともに、新分野への試作・開発に関する相談対応や情報提供等の支援を行う。

シルクや食材を生かして丹後の地域産業を強化するために、化学・食品についての専門的情報や分析機器を使って、地域企業の研究開発や品質管理について相談に応じ、また、支援を行う。

(3) 京都府中小企業特別技術指導員等による支援

丹後地域の織物業・機械金属業等の企業が生産現場の課題に取り組み、技術を改善し、また、技術を向上するために中小企業特別技術指導員及び学界・業界の専門家並びに当センター職員が連携し、企業の生産現場を巡回し、技術支援を行う。

また、当センターの行う専門家派遣における中小企業特別技術指導員の活用推進や個別指導の充実により、専門的かつ高度な技術支援体制を確保する。

(4) 依頼試験

企業等の依頼に応じて、織物、機械金属及び化学・食品に関する試験を実施する。

(5) 機器貸付

企業における品質管理や新製品開発を支援するため、機器を貸し付け、当センター職員の操作補助のもと企業自らが機器を直接操作して、試験・分析・測定を行う。

同時に、機器操作に必要な知識を有する人材を育成したい企業に対応するため、技術相談による機器の試験的な利用や人材育成を目的とした個別の操作講習等を柔軟に実施している。

(6) 京都府伝統産業生産基盤支援事業費補助金

伝統と文化のものづくり産業の生産基盤を支えるため、生産設備の新設、増設、更新又は改修及び道具類の購入を支援する。

(7) 異業種連携等によるオープンイノベーション創出

今後枯渇が予想される機料品について、織物事業者と機械金属事業者が連携し、代替品の試作・図面化・試用に取り組むとともに、織物業を中心とする若手事業者等を対象とした、新規ビジネスモデル構築に向けた研修を行うなど、地域課題解決に向けた異業種間・同業他社間のプラットフォームを

構築する。

なお、プラットフォームにおいては中小企業特別技術指導員の参画により、専門的見地からの技術支援を行う。

2 企業・地域ニーズに応じた技術人材の確保・育成

(1) 課題・ニーズに応じた研修の充実

ア 織物関係人材育成事業（担当：技術支援課織物グループ）

丹後地域の基幹産業である織物製造や関連工程に関わる人材に対して、産地の生産体制を維持することを目的に、生産技術や新技術を習得する「ひとづくり」や「ものづくり」の研修を実施する。

令和8年度は新たに、「織機調整研究会」を立ち上げ、織機調整技術の継承を目的に会員相互の意見交換を行う。また、「新商品開発【産地ネットワーク構築】」を行い、他事業者やインタウンデザイナーとの連携により商品開発・販路開拓を学び、産地内のネットワークを構築する。

◎：新規研修

分野	名称	内容
ひとづくり	織物基礎【対面方式】	織物の製造に必要な知識について、実際に顕微鏡、試験機、撚糸機、織機等を利用して学ぶ。
	織物基礎【オンデマンド方式】	織物の製造に必要な知識について、オンデマンド方式で好きなカリキュラムを選んで学ぶ。
	製織準備【たて継ぎ（手つなぎ）】	手つなぎによる、たて継ぎの作業を学ぶ。
	製織準備【たて継ぎ（機械つなぎ）】	たて継ぎ機（榊橋詰研究所製）を利用した、たて継ぎの作業を学ぶ。
	製織【基礎】	製織に従事され始めた方を対象にマンツーマンで、糸の扱い方、織機の操作、織り合わせ等を学ぶ。
	製織【応用】	織機やジャカードの日頃の調整、作業環境の整備等について、質疑応答形式で学ぶ。
	織物組織と紋織技術	織物組織と機拵えの関係を明確にし、紋データ作成の技術を学ぶ。
	織物設計のための基礎知識	糸の太さ、撚り数や撚り構成、糸密度など織物設計に必要な知識を学び、自社の織物を分解する。
	織機調整【シャトル基礎】	シャトル織機の調整方法を学ぶ。
	織機調整【レピア基礎】	レピア織機の調整方法を学ぶ。
	織機調整【分解・組立】	両側4丁シャトル織機（津田駒工業㈱製）を分解・組立して、織機調整の実技を学ぶ。
	織機調整【織機調整研究会】◎	織機調整の技術を次代に継承するため、研究会を構成し、会員相互に意見を出し合って学ぶ。
ものづくり	新商品開発【産地ネットワーク構築】◎	他の織物事業者やインタウンデザイナーと連携し、プロダクトの開発から販路開拓までを学ぶワークショップ。
	新商品開発【縫製】	ファッション製品を試作縫製する知識や手法を学ぶ。

	新商品開発 【ものづくり&機器活用】	当センターが保有する機器を利用して、新商品を開発する手法を学ぶ。
ものづくり	現場実践研修	講師が企業の現場に赴き、研修で学んだ内容を企業の現場で実践する手法を学ぶ。
	セミナー 【先進事業の見学】	商品開発、販路開拓、生産基盤の維持・発展に向けて、先進的に取り組んでいる企業等を見学する。

イ 機械金属関係人材育成事業（担当：技術支援課機械金属グループ）

京都府北部地域の機械金属業界の成長と振興を支援するため、(公財)京都産業 21 北部支援センターと連携し、地域機械金属業の技術者に向けた知識の啓発及び技能の高度化を目的に、機械加工業のニーズも踏まえ生産工程に対応した研修等を実施する。

特に、人手不足が深刻化している丹後機械金属業において、人材の即戦力化を望まれていることから、機械金属業界向けの基礎学習を 4 月から 5 月にかけて集中研修形式で開催、他にも宇宙分野への進出支援に必要な技術セミナーや生産性向上に利用可能な I o T 技術の基礎を習得する I o T 人材の育成に向けた研修を実施する。

★：機械金属基礎 集中研修 （予）：名称未定

分野	名称	内容
設計技術	機械製図基礎講座 (LEVEL 00) ★	機械金属業に関連する図面の読み書きの基礎知識を学ぶ。（はじめて製図を学ぶ方）
	機械製図講習会 (LEVEL 0→1)	機械金属業に関連する図面の読み書きの知識を学ぶ。（基本的な製図知識を有する方）
	機械製図講習会 (LEVEL 2)	機械金属業に関連する図面の読み書き（特に公差）に必要な知識を学ぶ。（製図が読める方・製図作業に携わる方）
	3次元 CAD 基礎 ★	初心者を対象にパソコンを用いた 3次元 CAD の操作解説と演習を行う。
	3次元 CAM 基礎 ★	初心者を対象にパソコンを用いた 3次元 CAM の操作解説と演習を行う。
機械加工技術	NC プログラム基礎 ★	NC 旋盤の操作を目的としたプログラムの解説と実習を行う。
	NC 旋盤基礎 ★	NC 旋盤の操作を目的とした機器操作等の説明と実習を行う。
	NC 旋盤講習会 (基礎、実習)	NC 旋盤の操作を目的とした機器操作等の説明と実習を行う。
	3軸マシニングセンタ基礎 ★	3軸マシニングセンタの操作を目的とした機器操作等の説明と実習を行う。
	3軸マシニングセンタ講習会 (基礎、実習)	3軸マシニングセンタの操作を目的とした機器操作等の説明と実習を行う。

技術セミナー 新分野 機械加工 他	VR 体験学習 ★	VR を活用した危険体験・機器操作について学ぶ。
	新分野進出支援技術セミナー	宇宙分野の機械金属業界に関する技術傾向や市場動向等を学ぶ。
	品質管理研修（予）	品質管理に必要な認証規格や品質管理体制等について学ぶ。
	鋳造基礎入門（予）	鋳造加工に用いる金型や材料の基礎知識について学ぶ。
IoT 技術 Excel VBA IoT	IoT 技術基礎 ★	IoT 技術に関する基礎知識の習得を図る。
	Excel マクロ・VBA 活用セミナー（入門）	社内業務の改善を目的とした業務システムの開発について学ぶ。
	Excel マクロ・VBA 活用セミナー（応用）	生産システムに関する設計・開発支援の基礎知識について学ぶ。
計測技術 測定機器	測定工具基礎講座 ★	機械加工に使用する工具の使用方法等の解説と実習を行う。
	CNC 三次元測定機講習会（座学・実習）	三次元測定機による測定の基礎知識と実操作による精密測定技術を学ぶ。

ウ 化学・食品関係人材育成事業（担当：企画連携課連携支援グループ）

化学及び食品について、基礎的な知識及び技術を学ぶ機会、また、新しい法規制、技術及び業界情勢に関する情報を提供し、化学等の産業において課題解決を推進できる人材の育成を図る。

令和8年度は（公財）丹後地域地場産業振興センターによる丹後地域ブランド Tango Good Goods 認定事業と連携してワークショップなどを開催する。

分野	名称	内容
食品	食品品質向上研修	Tango Good Goods 認定事業に関するイベントにおいて、食品事業者や地域住民と食べることやコミュニケーションを取ることを通じて、国や食品企業で経験を有する食品の専門家とともに、地域の食品をさらに消費してもらうためのテクニックを学ぶ。
化学	化学研修	次世代の人材が化学に対する理解を深めて、ものづくりの意欲を向上するために、基礎的な技術や知識を学ぶ。

☞ 令和8年度人材育成研修・セミナー開催スケジュール（9～10 ページ）

(2) 将来を担う人材の育成

将来の地域経済・産業を担う人材育成のため、地域の小中高校や京都府内等の大学と連携し、学齢に応じて以下の取組を行う。

また、地域産業への理解を深めるため、大学教員等関係者や地域住民などのセンター見学の受入も継続的に行う。

小中学生	出前事業やセンター見学受入
高校生	峰山高校機械創造科実習受入、企業との交流会開催（丹後広域振興局等との共催）
大学生	インターンシップ受入

令和8年度人材育成研修・セミナー開催スケジュール

分野	名 称	回数	開催月												
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
織物	織物基礎【対面方式】	5 回		●	●										
	織物基礎【オンデマンド方式】	5 回								●					
	製織準備 【たて継ぎ（手つなぎ）】	2 回			●										
	製織準備 【たて継ぎ（機械つなぎ）】	1 回								●					
	製織【基礎】	最大 24 回		●	●	●	●	●							
	製織【応用】	8 回								●	●				
	織物組織と紋織技術	18 回					●	●	●	●	●				
	織物設計のための基礎知識	6 回									●	●			
	織機調整【シャトル基礎】	10 回					●	●	●						
	織機調整【レピア基礎】	3 回									●				
	織機調整【分解・組立】	10 回								●	●	●			
	織機調整【織機調整研究会】	10 回				●	●	●	●	●					
	新商品開発 【産地ネットワーク構築】	6 回			●	●		●	●	●	●				
	新商品開発【縫製】	15 回		●	●	●	●	●	●	●					
	新商品開発 【ものづくり&機器活用】	随時	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
現場実践研修	随時	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
セミナー【先進事業の見学】	1 回						●								
機械 金属	機械製図基礎講座 （L E V E L 00）	2 回	●												
	機械製図講習会 （L E V E L 0→1）	2 回		●											

機械 金属	機械製図講習会 (LEVEL 2)	2回			●													
	3次元CAD基礎	2回		●														
	3次元CAM基礎	2回	●															
	NCプログラム基礎	2回	●															
	NC旋盤基礎	3回	●															
	NC旋盤講習会（基礎、実習）	4回							●									
	3軸マシニングセンタ基礎	3回	●															
	3軸マシニングセンタ講習会 （基礎、実習）	4回						●										
	VR体験学習	1回	●															
	新分野進出支援技術セミナー	1回				●												
	品質管理研修（予）	1回											●					
	鋳造基礎入門（予）	1回				●												
	IoT技術基礎	2回	●															
	Excelマクロ・VBA活用 セミナー（入門）	2回											●					
	Excelマクロ・VBA活用 セミナー（応用）	2回											●					
	測定工具基礎講座	1回	●															
	CNC三次元測定機講習会 （座学・実習）	4回				●												
食品	食品品質向上研修	1回						●	●									
化学	化学研修	1回								●								

3 時代の潮流に応じた新技術等開発の促進

(1) 新技術の研究開発

繊維製品の総合産地を目指して新しい展開を図るために必要な、①新規・新用途織物の試作開発、②新技術の研究開発、③製品の品質向上に関する研究、④生産加工工程の合理化研究、⑤新しい加工技術等の研究開発、⑥先端技術を応用した産地技術の高度化のための研究を行う。

また、機械加工や金属加工関連企業が抱える技術的課題等をテーマに研究し、京都府北部地域の機械金属業界の技術力向上を図る。

さらに、農工業用品、美容用品、化粧品及び医療用品にシルクの用途を展開し、また、地域食品を用いて新商品を開発する地域企業を支援するための研究を実施する。

なお、企業の技術力や市場動向に直結した研究開発については、企業訪問等により企業の課題・ニーズを把握し、企業の課題解決、商品化や技術移転などの実用化に向け、企業への提案等を積極的に行う。

研究テーマ	概要	担当
昭和 45 年から保存される織物分解成績書のデジタルアーカイブⅡ	丹後織物産地の半世紀以上に渡る品目や織物設計の変遷、または不変性を調査し、代表的な織物設計を整理したテキストの作成、当時の織物の再現製造と評価、将来を予測した織物開発を実施。	技術支援課 織物グループ
海外インテリア市場を想定した新規織物素材の開発Ⅱ	欧州インテリア市場に向けてソファ張地、カーテン地、デコレーション素材に使える新規織物素材を開発。事業者へ技術移転して実用化することを目指す。	技術支援課 織物グループ
画像生成 AI を用いた織物図案の実用性の検証Ⅱ	丹後織物の開発に適した画像生成 AI の開発を検証。また、開発した AI により生成した図案や柄を活用しての試織、事業者利用のためのプロンプト等のマニュアル化を実施。	技術支援課 織物グループ
丹後ちりめんのクリエイティブ表現における媒体特殊性の検証	デザインの視点から丹後ちりめんの用途展開の可能性を探るため、染織り及び染色、レーザー加工、立体造形のアプローチから「丹後ちりめんならではのクリエイティブ表現」を検証。 検証結果から丹後ちりめんでしか実現しないようなファッション及びインテリア製品を試作。	技術支援課 織物グループ
IoT による難削材切削加工データ収集に関する研究Ⅱ	新分野進出支援の一環として、難削材等の切削加工時に工作機械をモニタリングし、切削状況を分析する IoT を用いた安価なシステムを構築。	技術支援課 機械金属グループ
シルクパウダーを用いた機能性材料に関する技術Ⅱ	シルクパウダーを用いた材料の機能について研究し、工業、農業、化粧・美容業、医療業の業界分野への用途展開方法を検討。	企画連携課 連携支援グループ
丹後地域食品の魅力を引き出す技術	新たな丹後地域食品の開発に取り組む地域企業に対し、減塩食品の製造や、食塩相当量の機器測定についての技術を検討。	企画連携課 連携支援グループ

(2) 企業や大学との共同研究等

研究開発意欲の高い企業や大学との共同研究や各種助成制度、顕彰制度を通じて新技術等の研究開発に取り組む企業を支援する。（令和８年４月現在 ７件（見込含む））

また、研究開発を継続・実施していくための外部資金獲得を目指し、資金獲得に積極的に取り組んでいる大学や他研究機関のノウハウを学ぶ場を設定するとともに、大学や他研究機関との共同研究に向けた関係性構築を図る。

(3) 府政の重点施策分野における勉強会・研究会の実施

府がテーマを定めて進めている重点施策をより推進するための取組を実施し、地域企業の新産業への参入や新商品開発・販路開拓を促し、地域産業発展の加速化を図る。

ア シルクテキスタイル産地形成

海外進出に必要な生産基盤維持に関する課題等解決を、地域企業とともに継続的に取り組むことで、地域産業の維持・継続に加え、海外・新分野への進出を支援する。

機料品調達連絡協議会	機料品店、組合等で組織し、将来枯渇が危惧される機料品の安定供給に向けた取組の方策について他産地とも連携した協議を開催、安定供給の仕組実現に向けて取り組む。
織機調整研究会	丹後織物産地における織機調整技術者の担い手不足に対応するため、研究会を設立し、丹後テキスタイルテクノを講師として勉強会等を開催する。 さらに、会員相互の意見交換により技術力を底上げし、織機調整に必要な技能習得を目指すとともに、産地事業者間の横の連携により技術継承を進める。

イ 宇宙産業等進出

丹後地域の機械金属事業者を中心に宇宙分野の進出に必要となる技術研修等による技能向上や知識の啓発、先進企業等への視察等による情報収集を行い、宇宙産業進出への支援に取り組む。

宇宙ビジネス参入研究会	令和６年１０月に設立。丹後地域の中小機械金属業で組織し、宇宙分野への進出を目指し、関連情報の共有、宇宙分野を中心に加工される材料に関する加工技術の学習、先進企業や展示会への視察活動を実施。 また、専門家として公益財団法人 新産業創造研究機構（NIRO）から京都府中小企業特別技術指導員を招聘し、地域企業の強み等の分析活動等を実施
-------------	---

4 地域に頼られるセンター体制の確保

(1) 適正な人員の確保・育成

前述1～3を継続的・発展的に推進する上で必要な専門的知識を有する職員の確保を図り、「地域に頼られる職員」育成を図る。

ア 人員の確保について

現在欠員となっている「繊維職」確保のため、繊維系大学生を対象とした当センター独自のインターンシップやオンライン見学会の開催、大学主催の合同企業説明会への出展、大学研究室訪問によるリクルート活動などを行う。

イ 人材育成について

各種設備の操作を伴う指導等を担当する現業職員や会計年度任用職員等ベテラン職員が持つ技術・技能を継承するため、ベテラン職員監修のもとでの実技研修の実施等を行う。

(2) 計画的な機器の導入・更新

中小企業単体では導入困難な機器を計画的に導入・更新し、技術ニーズの高度化・多様化への対応や府政の重点施策分野への進出を後押しする。

機器の導入・更新にあたっては、助成制度の活用等も視野に、必要な財源の確保方策を検討する。

<令和8年度 更新予定機器>

万能引張試験機（織物）	強伸度試験、スリップ試験、滑脱抵抗試験に使用
-------------	------------------------

(3) 大学等との試験検査機器の相互活用体制の構築

当センターだけでは対応できない地域・企業ニーズにも対応するため、当センターの機器だけでなく、関係大学や他の公設研究機関等が保有する機器を相互に活用できる体制づくりに向け、情報整理・情報交換を中小企業技術センターと取り組むとともに、機器相互活用の試行を行う。

5 各種関係機関との連携強化

(1) 丹後・知恵のものづくりパークによる経営・技術の総合支援（再掲）

「丹後・知恵のものづくりパーク」が京都府北部地域のものづくり人材の育成や新たな産業振興、中小企業の総合支援を行う拠点であることを踏まえ、(公財)京都産業 21 北部支援センターと一体となり、京都府北部地域のものづくり産業の総合的な活性化を図る。

(2) 丹後織物工業組合との連携、支援

丹後織物工業組合が取り組む丹後織物求評会、TANGO OPEN CENTER、その他の販路拡大の取組を支援する。また、加工場の技術課題を整理し改善を目指すため、組合職員との勉強会を実施する。

(3) 丹後機械工業協同組合との連携、支援

丹後機械工業協同組合が取り組む事業や新たな産業分野への展開等を支援するとともに、構成企業の機械金属業に必要とされる知識の高度化・技術力向上を目的とした研修や勉強会の実施、人材確保対策事業に連携した地域高校との担い手育成を推進する。

(4) 産学公の連携（再掲）

企業や大学とともに、地域産業を支援するための研究を行い、技術的課題に対するアプローチ方法を広げるために保有機器の活用を推進する。

また、次世代の地域産業を支える技術人材の育成と確保のために大学からインターンシップを受入れる。

(5) 公設試験研究機関との広域連携支援

中小企業技術センターや京都市産業技術研究所との広域連携による支援体制の強化を図り、京都市産業技術研究所と共同で産地課題の解決に取り組む「織物未来共創 Lab」等広域連携による技術支援を推進する。

(6) 市町、商工会等との連携、支援

地元の市町、各種団体等が取り組むものづくり産業の振興事業等を支援する。

(7) 関係団体との連携、支援

名 称	内 容	担当
丹後テキスタイル・テクノ (平成 3 年度設立)	丹後産地の織機調整技能士で構成 若手従事者への織機調整技術の継承に積極的 に取り組む。また、丹後織物産地のみならず、他 産地からの研修要望にも応える。	技術支援課 織物グループ
丹織技術研究会 (昭和 35 年度設立)	丹後産地の織物業者等で構成 代替機料品の開発や関連工程の技術承継等、 産地生産基盤支援に関する事業を積極的に取り 組む。	技術支援課 織物グループ

機料品調達連絡協議会 (令和4年度設立)	機料品店、組合等で構成。 将来枯渇が危惧される機料品の安定供給に向けた取組の方策について協議し、安定供給の仕組みを実現する。	技術支援課 織物グループ
丹後ものづくり産業共創 プロジェクト (T・MIC) (令和6年度設立)	地域の基幹産業である織物業と機械金属業が連携する取組の一環として、宇宙環境で着用するインナー等を取り扱う企業に、丹後の絹織物のPRを継続する。	技術支援課 織物グループ 機械金属グループ
織機調整研究会 (令和8年度設立)	丹後織物産地における織機調整技術者の担い手不足に対応するため、産地関係者が連携して設立。 織機調整技術を会員相互に意見交換しながら技術力の底上げを図る。	技術支援課 織物グループ
丹後機械金属業振興推進 チーム (令和4年度設立)	丹後地域の基幹産業である機械金属業の宇宙分野への進出・販路開拓等の検討を目的に設立。 宇宙分野への進出にあたり、関係機関とのネットワーク形成・連携強化に取り組む。	技術支援課 機械金属グループ
宇宙ビジネス参入研究会 (令和6年度設立)	丹後地域の中小機械金属業を中心に宇宙分野への進出を目的として設立。 宇宙分野に関連する情報提供の他、新分野で用いられる材料に関する加工技術の学習、先進企業や展示会への視察活動、専門家による地域企業の分析等の取り組みを行う。	技術支援課 機械金属グループ
丹後地域加工食品品質 向上連絡会 (令和元年度設立)	丹後地域の加工食品製造者の商品開発、加工技術向上及び販路開拓の支援を促進する丹後地域加工食品品質向上連絡会の構成員となって、同連絡会の活動に参加する。	企画連携課 連携支援グループ
丹後ええもん工房 (平成19年度設立)	体験・見学のできる工房を設置している織物、工芸、食品等の事業者が、丹後地域の伝統と技術を生かし、多彩なものづくりや新たなものづくりに挑むとともに、丹後地域内外に情報を発信し、次世代につなぐための取り組みを支援する。	企画連携課 企画総務グループ 連携支援グループ

6 情報収集と情報発信

(1) 地域及び企業の情報収集と情報提供

(公財)京都産業 21 北部支援センターと連携して企業訪問を積極的に行い、丹後・中丹地域の企業の情報を収集し、課題等のヒアリングを行うとともに、「地域に開かれた、わくわくする公的試験研究機関」を目指し、丹後・知恵のものづくりパーク及び当センターの PR を行う。

(2) デザイン情報の提供

紋織・染色図案、ファッション情報等を収集・整備し閲覧に供し、新商品開発等を推進する。

(3) 研究成果の資料配布・情報発信

研究成果報告書を作成し、関係機関や業界に配布するとともに、ホームページ等を活用して成果を発信する。

(4) SNS、メールマガジン及びホームページ等での情報発信

Facebook、Instagram、YouTube、メールマガジン及びホームページ等を活用し、講習会・セミナーの募集案内及び各種支援制度並びに丹後管内の地域及び技術に係る情報等について発信する。

(5) メディアへの情報提供

メディアへの情報提供を積極的に行い、月 1 回の新聞連載を筆頭に、研究成果、事業及び研修等の情報についてメディアと連携しながら情報を発信する。

(6) 一般住民向けイベントの開催

支援対象である各種業界・企業や関係機関だけでなく、一般住民への当センターの認知度向上のため、一般向けのイベント「織センフェスティバル」を開催する。

沿 革

明治 38 年 9 月	「京都府織物試験場」の設置が決定
明治 39 年 2 月	中郡吉原村（現 京丹後市）に「京都府織物試験場」を開設、業務開始
昭和 2 年 3 月	奥丹後大震災により建物全壊
昭和 3 年 8 月	建物及び諸機械・設備の復興が完了、業務再開
昭和 31 年 10 月	与謝郡野田川町（現 与謝野町）に技術員駐在所を設置
昭和 40 年 11 月	創立 60 周年記念事業実施
昭和 41 年 6 月	組織変更（振興課、技術課に加え経営指導課を設置、総合指導機関に再編）
昭和 43 年 7 月	中郡峰山町丹波（現 京丹後市）に改築移転 組織変更（技術課（技術指導係、試験研究係）、経営課（総務係、経営指導係）の 2 課 4 係制に再編）
昭和 43 年 9 月	皇太子同妃殿下（現上皇皇后陛下）が当场を御視察
昭和 44 年 12 月	「丹後機業振興対策 5 カ年計画」を策定
昭和 45 年 8 月	組織変更（丹後機業振興対策室を設置、1 室 2 課 4 係制に再編）
昭和 47 年 6 月	名称を「京都府織物指導所」に変更、染色棟を竣工 組織変更（技術課の 2 係制を廃止、主任研究員制に再編） 技術員駐在所を廃止、加悦谷分室を設置
昭和 50 年 6 月	組織変更（丹後機業振興対策室を廃止、2 課 1 分室制に再編）
昭和 50 年 11 月	創立 70 周年記念事業実施
昭和 52 年 11 月	与謝郡加悦町算所（現 与謝野町）に加悦谷分室を改築移転
昭和 60 年 10 月	創立 80 周年記念事業実施
平成 4 年 8 月	加悦谷分室 20 周年記念事業実施
平成 7 年 8 月	創立 90 周年記念事業実施
平成 12 年 3 月	機械金属試験室を増築
平成 12 年 4 月	名称を「京都府織物・機械金属振興センター」に変更 組織変更（機械金属課を設置、経営課、織物課、加悦谷分室の 3 課 1 分室制に再編）
平成 17 年 4 月	組織変更（加悦谷分室を本所に統合、経営室、織物室、機械金属室の 3 室制に再編）
平成 17 年 11 月	創立 100 周年記念事業実施
平成 20 年 4 月	組織変更（経営支援業務を（公財）京都産業 21 北部支援センターに移管、企画連携課、技術支援課の 2 課制に再編）
平成 20 年 9 月	京丹後市峰山町荒山（丹後・知恵のものづくりパーク）に移転
平成 20 年 10 月	丹後・知恵のものづくりパークオープニング式典開催
平成 27 年 6 月	創立 110 周年記念事業実施
平成 31 年 3 月	丹後・知恵のものづくりパーク機能強化（人材育成・新産業創出）整備実施
令和 7 年 10 月	創立 120 周年記念事業実施

所在地及び施設等の概要

所在地	京都府京丹後市峰山町荒山 225 番地 (丹後・知恵のものづくりパーク内)
建物	4,183.51 m ² (延床面積)
(A 棟)	1,322.03 m ²
(B 棟)	2,582.65 m ²
(附属建物)	278.83 m ² (物置・倉庫・車庫等)
設備・機器	約 100 機種 (100 万円以上の機器) ※ (公財)京都産業 21 から A 棟・B 棟の一部を事務所として使用貸借

丹後・知恵のものづくりパークの概要

土地	35,466.22 m ² (敷地面積)
建物	10,933.51 m ² (延床面積) (A 棟、B 棟、C 棟、D 棟、E 棟、附属建物ほか)
施設目的	京都府北部地域のものづくり人材の育成や新たな産業振興と中小企業の総合支援を行うための拠点施設
ゾーニング	①トレーニングゾーン (基礎から応用に至る人材育成のための研修スペース : B 棟 1 階、C 棟) ②トライアルゾーン (地元企業が新分野に進出するための事業活動スペース : C 棟、D 棟、E 棟) ③サポートゾーン (経営・技術一体の総合支援のためのスペース : A 棟、B 棟 1 階) ④コラボレーションゾーン (人材育成、新産業創出のための研修、交流スペース : B 棟 2 階)
施設整備	京都府・京丹後市・(公財)京都産業 21 が日本電産(株) (現ニデック(株)) 旧峰山工場を活用し、共同で整備 (平成 20 年 10 月 23 日グランドオープン)
施設運営	(公財)京都産業 21 が日本電産(株) (現ニデック(株)) から賃借し、施設全体を管理・運営

令和 8 年度事業計画書

令和 8 年 7 月

京都府織物・機械金属振興センター

〒627-0004 京都府京丹後市峰山町荒山 225 番地

(丹後・知恵のものづくりパーク)

TEL 0772-62-7400

FAX 0772-62-5240